

野生生物の現況

1. 植物

本市には周伊勢湾要素植物群を含む豊かな植生が残されています。現在、約 1,050 種の植物が確認されていますが、気候変動や外来植物の侵入、市街地の拡大等により分布は刻々と変化しています。

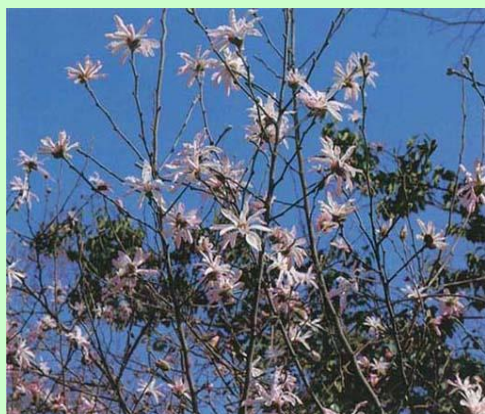
本市の植物の生息状況は、多治見市教育委員会によって取りまとめられた「新版 多治見の植物」に詳しく掲載されており、市内で見ることのできる植物のうち約 570 種について写真やイラスト付きで解説されています。



多治見市の木について（シデコブシ と イチョウ）

シデコブシは、昭和 57 年8月に多治見市の木に指定されました。少し紅色を帯びた白色の花を咲かせます。シデコブシという名は、花びらの開いたようすが、玉串に下げる四手(しで)に似ているところからつけられました。自生地は伊勢湾を中心とする東海地方の湿地等のわずかな範囲です。

なお、旧笠原町の木に指定されていたイチョウは、平成 18 年 1 月の合併に伴い、現在は多治見市の木となっています。



シデコブシ



イチョウ

2. 昆虫類

本市では約 80 種のチョウ類、約 65 種のトンボが確認されています。このうち、環境省絶滅危惧Ⅱ類のギフチョウはかつて 50 カ所以上で確認されており、里山の減少を受けていますが緊急を要する状態ではありません。トンボでは、湿地の減少からハッチョウトンボの生息地が減っていることが心配されています。小型のゲンゴロウ類は、現在でも丘陵地の沢やため池等で普通に見られます。ゲンジボタルは市内の数カ所で住民の目を楽しませており、特に北小木川では「北小木のホタル」として保護され、多数の個体数を見ることができます。しかし、湧水湿地の減少と縮小により、ヒメヒカゲ・ウラナミジャノメは市内絶滅が心配されています。



ギフチョウ



ハッチョウトンボ(提供:土岐川観察館)

3. 鳥類

本市では、亜種と外来種を入れて 177 種の鳥類が確認されており、よく見かける種としては、トビ、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等があげられます。サンコウチョウ、オオタカも市内で営巣が確認されています。また、土岐川は県下有数のオシドリ越冬地として、知られています。



オシドリ(提供:土岐川観察館)



オオタカ(提供:土岐川観察館)

4. 魚類

本市では、これまでに 37 種の魚類が確認されており、そのうち 23 種が在来種です。河川の淵にはコイ、ナマズ等が生息し、瀬にはオイカワ、カワヨシノボリ、ニゴイ等が生息しています。近年アユ、ウナギが放流されていますが、海から遡上してくる個体も確認されています。池にはタモロコ、モツゴ、コイ、カワムツ、フナ仲間等が生息していますが、オオクチバスやブルーギル等の特定外来生物が人の手によって放流され増えています。希少種では、ウナギ、ミナメダカ、ドンコ、ヌマムツ、ドジョウが確認されています。

土岐川は、かつては瀬と淵が交互に現れ変化に富んでいましたが、河川改修等によりかつてのレキ河原が草木の繁茂する単調な瀬が続く河川に姿を変えています。生息する魚種は以前と変わらないものの、産卵場所や稚魚の成育場所、成魚の隠れ場所の減少から、魚種、個体数が共に減少しています。



アカザ(提供:土岐川観察館)



ドンコ(提供:土岐川観察館)

5. 哺乳類・爬虫類・両生類

本市では、キツネやタヌキ、イタチ、ハクビシン、イノシシ、モグラの仲間、テングコウモリ等の希少種が生息しており、近年ではニホンカモシカも確認されています。爬虫類ではニホンヤモリ、ニホンイシガメ、トカゲ、マムシ等が、両生類ではアカハライモリ、トノサマガエルが確認されています。外来生物も多く、日本固有種との交雑、食物や成育場所の競合、新たな感染症の発生等が懸念されています。



アカハライモリ(提供:土岐川観察館)



テングコウモリ(提供:土岐川観察館)